

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3670101512 | | |
| 法人名 | 医療法人 川内内科 | | |
| 事業所名 | グループホーム松の実 | | |
| 所在地 | 徳島市名東町3丁目15 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年1月24日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年2月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の発行:1ヶ月に1回。ひと月のご利用者の生活風景や活動内容を掲載しホームでの取り組み内容をお知らせしている。 ・お便りの作成:1ヶ月に1回。各ご利用者のご家族に写真付きのお便りを作製している。お便りの内容は、その月に取り組まれた活動を載せコメントも記入しご利用者の生活環境や生活風景をお伝えしている。 ・健康状態報告書の作成:1ヶ月に1回。ひと月の健康状態に加え、認知症状の変化などをまとめ、ご家族に報告を行っている。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>事業所は、幹線道路から少し離れた閑静な住宅街のなかに位置している。周辺に、同一法人の運営する医療機関や他サービス事業所等があり、急変時には24時間対応することができるなど、利用者や家族等の安心に繋がっている。毎月、利用者の生活状況や健康状態などについて、広報紙や写真入りの便りで家族等に連絡するなど、家族等との関係作りも大切にしている。定期的に、利用者とともに自治会運営の認知症予防カフェに参加したり、避難訓練を地域住民や地元消防署等と合同で実施したりするなど、積極的に地域と交流している。また、併設の他サービス事業所と協力し、レクリエーションや音楽療法など、利用者一人ひとりが生き生きと過ごすことができるよう工夫している。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 亀ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「自由」「安心」「快適」の理念をモットーにご利用者の生活環境を整え支援している。理念はユニット内に掲示しており会議や勉強会などの機会に理念に基づく具体的なケア内容を確認し、意識統一を図っている。 | 事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を掲げている。ユニットごとに、理念を掲示して、職員間での共有化を図っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内認知症カフェの方の慰問があり交流する機会があった。近隣を散歩した際や近所のスーパーに出かけた時などは、ご近所の方から声をかけて下さることもある。 | 事業所では、地域の清掃活動や認知症カフェに参加したり、小学校の廃品回収に協力したりして、地域との交流を図っている。定期的に、幼稚園児やボランティア等の来訪を受け入れている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議開催時に町内会長や民選委員から認知症状や支援の方法について質問があった時にはお話する機会がある。また町内の認知症カフェの立ち上げに協力した。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ご利用者の状態や生活状況の報告を行い、評価結果や改善に向けての目標や取り組み方法を伝えている。独居での認知症患者が増えているようで地域でどのように対応すればよいか意見交換が行われている。 | 2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の状況を報告するとともに、出席者から助言や意見等を得つつ、多様な意見交換を行っている。会議には、利用者や民生委員などの出席を得ているが、管理者は、地域住民など、より多様な出席者を得たいと考えている。 | 今後は、利用者家族や地域住民等の、多様な出席を得ることで、幅広い意見交換の場となるよう努めることに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営に関して分からない事は積極的に訪ねている。提出物(実績報告や運営推進会議の議事録)がある場合には可能な限り、足を運び担当者顔と顔を合わせている。 | 管理者は、月1回、市の担当窓口へ出向き、事業所の報告を行うとともに、運営面に関して相談している。事業所にかかわる法改正の情報などもききとり、連携を深めるよう取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員が理解し正しいケアが行えるよう定期的に職員研修会を行っている。また、2ヶ月に1度、身体拘束適正委員会を開催し身体拘束をしないケアへの意識を高めている。 | 事業所では、年1回、身体拘束の内容や弊害について学ぶために、内部研修を実施している。身体拘束委員会を設置し、マニュアルの作成もしている。職員は、研修等を通じて、利用者の自由な暮らしに向けた支援を実施している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的に勉強会を行い内容の理解に努めている。またスタッフ間でも言葉使いを含め不適切なケアが行われていないか確認しあえる関係作りに努め、会議でも話し合っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 亀ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 勉強会を実施し内容の理解に努めている。利用を検討した方と思われる方にはパンフレットをお渡しするなどして制度の内容をお伝えし利用をお勧めしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は十分に説明を行い、締結後も不明な点はいつでも質問していただけるようお伝えしている。解約時は理由を明確にしご家族・ご利用者の意向を確認しながら納得して頂けるよう話し合いを行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置し、いつでもご利用いただける環境作りをしている。ご利用者には生活の中で、ご家族には面会時を利用し自然な流れでお尋ねしご意見を頂けた場合には解決に向けて話し合うようにしている。 | 事業所では、家族の来訪時やカンファレンスなどの際に、利用者や家族等から希望や意見などをききとっている。出された意見等は、職員会議で検討し、運営面に反映している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は現場にいる為、現状を理解できており、日々の業務やカンファレンス等で職員の意見を聞く機会を設けている。代表者へは必要に応じ管理者を通じて意見や提案等を相談している。 | 管理者は、月1回の職員会議やユニット会議などの機会に、職員の意見や要望等をききとっている。日ごろの支援のなかで意見を確認したり、年1回ストレスチェックを実施したりして、働く意欲の向上やサービスの質の向上に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎月行われる運営会議にて管理者を通して勤務状況等の報告を行い、改善すべき点については早急に対処できるよう職員環境を整える努力を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の知識や意欲の向上、今後のケアへの活用の為、毎月ホーム内で独自の研修を開催している。外部研修には殆ど参加できていないのが現状である。新人職員に関してはケアと業務習得に向けて段階毎の目標を作成し、取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 日本認知症グループホーム協会に加盟し介護保険制度の動向や研修会開催等の情報を得るようにしている。系列他法人グループホームとは定期的に交流している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 亀ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前には事前にご家族やご本人と会い、身体状況や困っていること等を聞くようにしている。また入居当初は細かい事でも記録に残しご本人の思いを察しながら全職員が状態の把握に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初期の面会時には、その都度ご利用者の状況を丁寧にお伝えしている。また、面会時に心配になったことはないか等もお尋ねし、新しく出たケアへの要望については早急に反映できるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時には状況の聞き取りを丁寧に行っている。グループホームに限らず(系列施設の紹介等も含めて)、状態に応じた必要なサービスについてお伝えしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 「ご利用者は人生の先輩である」という考え方を全職員が共有しており、生活の中で学ぶ機会が多い。生活は互いの知恵を活かし、共に支え合う関係作りに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や毎月のお便り等でご利用者の状況をお伝えしている。また必要なケアについても相談しご本人の意向や状態をお伝えしケアの充実に向け努力している。疎遠になっているご家族についても電話をかけ様子を伺った上でご利用者の状況などをお伝えしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 大切に受け止めている。馴染みの方が面会に来られた際にはお茶等を用意しゆっくり過ごして頂いている。通い慣れた歯科へのやかかりつけ医への受診等、ご家族の協力を得ながら関係が途切れないよう努めている。 | 事業所では、利用者がこれまで大切にしてきた人間関係や社会関係の把握に努めている。近所のスーパーや美容室、墓参りなどにでかける際は、家族等の協力を得ている。また、知人等の来訪時には快く迎え入れるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の関係や性格の理解に努め配席に配慮するなど、職員が調整役となりご利用者同士がうまく関わり合えるような環境づくりをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 亀ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他の事業所へ転居された場合には、ご家族に定期的に状態を伺う為、電話をしたり、直接、面会に行かせてもらっている。転居先でも本人様らしく生活が送れるよう情報提供を行い、不明点はいつでも連絡いただけるよう転居先にお伝えしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 何気ない会話の言葉や表情に気付けるよう観察し、ご本人の意向を把握し対応できるよう努めている。意思疎通が困難な方にはご家族から情報を頂いたり、日々の表情や生活歴を大切にしている。 | 事業所では、利用者や家族等から生活状況や習慣を伺ったりして、希望や意向の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、本人の行動や表情などから思いをくみ取り、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にはご家族、ご本人に可能な範囲でお伺いしている。その後の生活や面会時の情報で知り得た事は記録に残し、ケアに活かすようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムを把握し、体調や精神面にも配慮しながら対応し、総合的に配慮できるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月カンファレンスでモニタリングを行っている。3ヶ月毎に意向確認表をご家族へ送付し、意向を確認しながら共同で作成するよう努めている。ご利用者が必要とする事、要望を取り入れ、より良い生活ができる計画となるよう努めている。 | 事業所では、利用者や家族等の意向などを踏まえた、介護計画書を作成している。3か月に1回、意向確認表を活用して、利用者等の意向を把握し、計画に反映している。また、状況の変化に応じて、随時の見直しも行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 体調の変化、生活の様子は日々記録している。介護計画についてはチェック表を作成し実施状況を直ぐに把握できるようにしている。各記録の情報を全職員が共有しながら実践し、計画の見直しにも役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人やご家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。往診の等、必要に応じて医師・看護師がホームに向き診察・採血・点滴・処置を行う等、個々の満足度を高める努力をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 亀ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ご利用者が安心して生活できるよう地域諸施設に協力をして頂いている。消防署や警察にはパンフレットを配布して説明し、もしもの時には安否の見守りを依頼している。また定期的に地域の美容室の方が散髪に来てくれている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の意見を尊重し、精神科等これまで通院していた希望する病院への受診を支援している。 | 事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。緊急時にも、24時間対応することができるよう、協力医療機関と連携を図っている。他の医療機関を利用する際は、家族等と連絡を取りつつ、臨機応変に対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医療機関の看護師にすぐに連絡がとれる体制をとっている。定期訪問時には適宜、状態報告や相談を行っている。急を要する場合は併設のデイの看護師に協力を依頼する事もある。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院後も随時入院先へ病状確認等の連絡を取り合いながら見舞いにも伺っている。また、ご家族とも情報交換を行い早期退院へ向けた連携を図るため、情報の共有に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合における対応の指針を定め、入居時に説明している。また、ご希望に応じた対応がとれるよう、ご家族や協力医療機関と共同で支援できる体制作りにも努めている。 | 事業所では、入居時に、重度化や終末期における方針等について、利用者や家族に説明している。心身の状況の変化に応じて、本人や家族等の意向を確認しつつ、かかりつけ医や関係機関と支援方針の共有化を図るなど、チームで支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルを整備し周知徹底をしている。急変・緊急時に備え、消防署の協力を得て年に1回、心肺蘇生術・AEDの使用方法について研修を受け、全ての職員が対応できるよう訓練している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て年2回火災訓練を行っている。ホーム内でも災害についての勉強会を開催し少しでも災害時に役立つ情報を得るようにしている。 | 事業所では、年2回、消防署や地域住民の協力を得て、避難訓練等を実施している。日中と夜間を想定し、避難経路を確認したり、炊き出し訓練を実施したりしている。定期的に、災害マニュアルや備蓄品の整備なども行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 亀ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者の性格や認知レベルを考慮し言葉を選び、自尊心を傷つけないような声掛けや対応が行えるよう気をつけている。 | 事業所では、年1回、プライバシーや倫理などに関する研修会を開催し、サービスの質の向上に取り組んでいる。職員は、利用者一人ひとりの人格や尊厳を尊重しつつ、自尊心を傷つけることのないよう支援に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個々の状態に合わせ、当事者が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。直ぐに言葉が出なかったり、表現ができない方に対しては表情を読み取ったり選択肢を提案する等し自己決定できるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々の生活ペースを尊重し、それに合わせた対応を心掛けている。一人ひとりの体調面に配慮しながら、その日・その時ご本人の気持ちを大切に支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 一人ひとりの個性を大切に、必要な部分だけをさりげなく援助している。起床時の更衣や新たな衣類を購入する際にはご本人の意見や好みを尊重している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事準備から片付けは個々の能力を把握し、できる事は一緒に取り組んでいる。食事は職員も一緒に食べ(朝・夕)、食事の援助も行っている。 | 食事は、法人の管理栄養士とともに立てた献立をもとに提供している。利用者一人ひとりができることに配慮しつつ、調理や盛り付け、配膳などを職員とともに行っている。手作りおやつや行事食など、食事を楽しむことができるよう工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食の食事・水分摂取量はチェック表を用いて記録し把握している。見た目を考慮した上で、個々の咀嚼・嚥下状態に合わせた形態・提供方法の工夫を行っている。慢性的に食事量の少ない方には高カロリー食をお勧めするようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、個々の能力に応じた対応が行えている。義歯の方に関しては就寝前に洗浄剤で消毒を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 亀ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を用いて排泄パターンの把握に努めている。日中のおむつの使用は避け、声掛けや時間誘導で対応しトイレで排泄できるよう支援している。 | 事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、可能な限りトイレでの排泄をすることができるよう、支援に取り組んでいる。職員は、プライバシーなどを損ねることのないよう、配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分を多く摂っていただけるようお勧めしている。また乳製品や食物繊維の多い食材を取り入れるように心がけている。生活の中でも体を動かす機会を作り便秘予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日は毎日、設けている。入浴を好まない方には声掛けの工夫やタイミングを計り快く入っていただける環境作りをしている。 | 事業所では、利用者一人ひとりの希望や状況に応じて入浴することができるようにしている。本人が、羞恥心や不安を感じることはないよう、同性介助などを行っている。入浴に拒否がみられる場合は、声かけや時間帯を変更するなど、本人本位に支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの睡眠状態を把握し日中の活動内容を工夫している。不眠時にはホットミルク等をお勧めし、ゆっくり会話して過ごすこともある。個々の状態に応じて日中に仮眠できるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の服薬リストはファイリングし、いつでも確認可能である。新しい薬が処方された時には副作用をチェックし、ご利用者の状態を注意深く観察し必要に応じて医師や薬剤師に相談するようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 各々の生活歴を把握し、生活の中で得意分野で力を発揮していただけるよう好まれる事柄をお勧めしている。また、家事活動等に取り組めるよう積極的に誘いし、お手伝い頂けた時には感謝の言葉をお伝えしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 各々の希望に応じドライブや買い物、散歩など可能な範囲で行っている。要望がある時にはもちろんだが、意思表出が困難な方でも近隣を散歩する機会などを設けられるよう努めている。また、ご家族が散歩やドライブ、お墓参り等に連れ出してくださいる事もある。 | 事業所では、気候のよい日には、利用者とともに散歩に出かけている。本人の希望に応じて、買い物やドライブ、季節ごとの外出行事なども実施している。また、家族の協力を得て、墓参りに出かけるなど、一人ひとりが生き生きと過ごすことができるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 亀ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 各々のご家族と相談し、力に応じて支援している。お金を所持していない方から「買い物がない」などの要望がある場合には、ご家族に相談した上で買い物にお連れしている。支払い時にはお金をお渡しし、ご自分で支払いができるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じて対応できている。宅配でプレゼントが届いた際には、お礼が伝えられるよう電話ができるよう職員側から働きかけている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用部は誰もが安らかな気分で過ごせるよう刺激があるものは取り除いている。また季節を感じていただけるようホームの壁面と廊下のに季節に合った飾りつけをしている。 | 共用空間は、採光がよく、掃除が行き届き、清潔感がある。壁面には、利用者とともに制作した作品や季節の飾り付けを行うなど、季節感を感じることができるよう工夫している。手すり等も適切に設置し、居心地よく過ごすことができる空間づくりに取り組んでいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールにはテーブル席とは別にソファー席を設け、談笑できるスペースがある。また、TVをご覧になる際には個別で椅子を用意するなどして思い思いに過ごせるよう環境作りに努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にはご家族に協力をお願いし、使い慣れた家具や寝具の持ち込みをお願いしている。自宅で使っておられたTVやベット、布団を持ち込んで頂き自宅にいるような居心地の良い空間作りを行っている。 | 居室は、利用者が居心地よく過ごすことができるよう、馴染みの家具や写真、仏壇などを持ち込んでもらっている。家具の配置を工夫するなど、安全面に配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 表札や居室ドアには表札を作り自室がすぐに分かるようにしている。またトイレの場所を示したりしている。月日がすぐに分かるよう壁に大きなカレンダーを貼り付けている。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|-------------------|-----|--|--|------|------|
| | | | 鶴ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「自由・安心・快適」の理念をモットーにご利用者の生活環境を整え支援している。理念はユニット内に掲示しており会議や勉強会で理念に基づく具体的なケア内容を確認し意識統一を図っている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 町内の認知症カフェをご利用されている方々が慰問に来て下さり交流する機会があった。施設周辺の散歩や近所のスーパーに買い物に出かける機会を設ける事で近隣の方と顔を合わせる機会となっている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議では町内会長や民生委員から認知症状や支援の方法について質問がある際にはお話ししている。また町内の認知症予防カフェの立ち上げに協力した。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ご利用者の状態や生活状態の報告を行い、評価結果や改善に向けて取り組んでいる事を伝えている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営に関して分からない事があれば積極的に尋ねている。毎月の利用実績、2ヶ月に1回の運営推進会議の議事録など何らかの提出物がある際には直接足を運び担当者とは顔を合わせている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員がきちんと理解し正しいケアが行えるよう定期的に勉強会を開催している。また、2ヶ月に1度、身体拘束適正委員会を開催し身体拘束をしないケアへの意識を高めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的に勉強会を行い内容の理解に努めている。またスタッフ間でも言葉使いを含め不適切なケアが行われていないか確認しあえる関係作りに努めている。会議等でも話し合う機会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|-----|--|--|------|------|
| | | | 鶴ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | こちらでも定期的に勉強会を行い制度に対する理解に努めている。必要に応じては制度の利用をお勧めしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には十分に説明を行い、締結後も不明点はいつでも質問して頂けるようにお伝えしている。解約時も理由を明確にし、ご家族、ご利用者の意向を確認しながら、納得して頂けるように話し合いを行うようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置し、いつでも利用できるようにしている。ご利用者は生活の中で、ご家族は面会時に自然な流れでお尋ねしている。ご意見を頂け場合には解決に向け話し合うようにしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は現場にいるため、現状を理解できており、日々の業務やカンファレンス等で職員の意見を聞く機会を設けている。代表者へは必要に応じて管理者を通じ意見や提案を相談している。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎月行われる運営会議で管理者から勤務状況等の報告を行っている。また、部署内で困っている事なども報告し多方面からの意見を頂戴し改善に向け職場環境を整える努力を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の知識や意欲向上、今後のケアへの活用のため毎月ホーム内で勉強会を開催している。回数は少ないが他の部署が開催している外部講師による勉強会に参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 日本認知症グループ協会に加盟し、介護保険制度の動向や研修会開催等の情報を得るようにしている。また同じ系列ではあるが他法人のグループホームとは定期的に交流している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------|-----|--|---|------|------|
| | | | 鶴ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前には事前にご家族やご本人と会い、身体状況や困っている事等をお尋ねしている。入居当初は細かい事でも記録に残しご本人の思いを察しながら全職員が状態の把握に努め対処できるようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居当初の面会時には、その都度、ご利用者の状況を丁寧にお伝えし、新たなケアへの要望等を伺う機会も含め、職員との会話時間を増やし信頼の構築に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時には状況をしっかり伺った上でグループホームに限らず系列施設の紹介も含め、状態に応じた必要なサービスについてお伝えしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者は人生の先輩であるという考えを全職員が共有しているため生活の中で学ぶ事は多い。生活の中で互いの知恵を活かしながら共に支え合う関係づくりに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や毎月のお便り等でご利用者の様子や状況を報告している。また必要なケアについて相談したり、ご本人の意向を伝え協力関係が築けるよう努力している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 日課や馴染みのある人、場所に関しては大切に捉えている。仏壇を持ち込み、毎朝、仏壇に手を合わせられる環境を整えたり馴染みの方の来訪あればお茶等をお出ししゆっくりと過ごして頂いている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 各々の性格や関係性を理解した上で配席に気を配る等、職員が調整役となりご利用者同士がうまく関わり合えるように配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------------|------|--|---|------|------|
| | | | 鶴ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他の事業所へ転居された場合には、ご家族に定期的に状態伺いのお電話をしたり、面会に行っている。転居先でもご本人らしく生活が送れるよう情報を伝え、不明点はいつでも連絡いただけるようお伝えしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 生活の中で少しの言動や表情を注意して観察しながら、ご本人の望む事た意向を把握し対応できるよう努めている。意思相通が困難な方はご家族から情報を得るようにしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にはご家族やご本人に可能な範囲で伺っている。また、その後の生活や面会時の情報等で知り得た事は記録に残し、ケアに活かすようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 各々の生活リズムを把握し、また、体調や精神面にも配慮しながら対応し、全職員で総合的な把握ができるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月カンファレンスを行いモニタリングを行っている。3ヶ月毎に意向確認表をご家族に送付し、意向を確認しながらご家族と共に作成できるよう努めている。ご利用者にとって必要な事や要望を取り入れ生活の質の維持と向上に努めている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 体調の変化、生活の様子等を日々記録している。介護計画についてはチェック表を作成し実施状況を直ぐに把握できるようにしている。各記録の情報を職員が共有しながら実践し計画の見直しに役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人、ご家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。往診や必要に応じて医師や看護師がホームに出向き診察・採血・点滴・処置を行う等、個々の満足度を高める努力をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|------|------|
| | | | 鶴ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ご利用者が安心して生活できるよう地域諸施設に協力して頂いている。消防署や警察署にはパンフレットを配布し説明しもの時には安否の見守りを依頼している。また定期的に地域の美容室から散髪に来てもらっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の意見を尊重し、眼科等これまで通院していた希望する病院への受診を支援している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医療機関の看護師に直ぐに連絡できる体制をとっており、定期訪問時には適宜状態報告や相談を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院後も随時入院先へ病状確認等の連絡を取り合いながら、見舞いにも伺っている。また、ご家族とも情報交換を行いながら早期退院へ向けた連携を図るため、情報の共有に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合における対応の指針を定め、入居時に説明している。また希望に応じ出来る限り対応が取れるよう家族や協力医療機関で支援できる体制作りに努めている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルを整備し周知徹底している。急変・緊急時に備え、消防署の協力を得て年1回心配蘇生術・AEDの使用方法について研修を受け、全職員が対応できるよう訓練している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て年に2回火災訓練を行っている。ホーム内でも災害についての勉強会を開催し少しでも災害時に役立つ情報を得るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 鶴ユニット | 自己評価 | 自己評価 |
|----------------------------------|------|--|---|-------|------|------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者の性格や認知レベル等を考慮した言葉かけと対応を心掛けている。個々のプライバシーやプライドを損なわないよう生活歴の把握にも努めている。 | | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 各々の状態に合わせ、本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。すぐに言葉が出なかったり表現ができない方に対しては表情を読み取ったり選択肢を提案してみる等して自己決定できるように努めている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 各々の生活ペースを尊重し、それに合わせた対応を心掛けている。一人ひとりの体調面に配慮しながら、その日、その時のご本人の気持ちを大切に支援している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご利用者の個性を大切にし必要な部分だけをさりげなく援助している。起床時の更衣や新たな衣類購入時にはご本人の意見や好みを尊重している。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事準備や片づけは個々の能力を把握し、できる事は一緒に取り組んでいる。食事は職員も食べ(朝・夕)、食事中の援助もさりげなく行っている。 | | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食の食事・水分摂取量はチェック表を用い記録している。見た目を考慮した上で個々の咀嚼・嚥下状態に合わせた形態・提供方法の工夫を行っている。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアに取り組んで頂けるよう個々の能力や状態に応じた対応ができています。義歯の方に関しては就寝前に洗浄液で消毒を行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|------|------|
| | | | 鶴ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を用いご利用者の排泄パターンの把握に努めている。なるべく日中のオムツの使用は避け、時間誘導や自然な声掛けを行いトイレで排泄できる環境作りに努めている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分を多く摂ってもらえるよう声を掛けながら、乳製品や食物繊維の多い食材を取り入れるよう工夫している。生活の中でも体を動かす機会を作り、便秘予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日は毎日、設けている。入浴を嫌う方には声掛けの工夫やタイミングをみて気持ち良く入って頂けるよう支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの睡眠状態を把握し、日中の活動内容等を工夫し対応している。不眠時にはホットミルクをお勧めし、ゆっくり会話するなど配慮している。また状態や体調に応じて日中も仮眠できるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 各々が服薬している内容をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。新しい薬が処方された時には副作用をチェックし、ご利用者の状態を観察し必要に応じて医師や薬剤師に相談するようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの希望に応じ、ドライブや買い物、散歩など可能な範囲で支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 各々の希望に応じドライブや買い物、散歩など可能な範囲で行っている。要望がある時にはもちろんだが、意思表示が困難な方でも近隣を散歩する機会などを設けられるよう努めている。また、ご家族が散歩やドライブ、お墓参り等に連れ出してくださる事もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|--|---|------|------|
| | | | 鶴ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 各々のご家族と相談し、力に応じて支援している。お金を所持していない方から「買い物があったい」などの要望がある場合には、ご家族に相談した上で買い物にお連れしている。支払い時にはお金をお渡しし、ご自分で支払いができるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じて対応できている。宅配でプレゼントが届いた際には、お礼が伝えられるよう電話ができるよう職員側から働きかけている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用部は誰もが安らかな気分で過ごせるよう刺激があるものは取り除いている。また季節を感じていただけるようホームの壁面と廊下のに季節に合った飾りつけをしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールにはテーブル席とは別にソファ席を設け、談笑できるスペースがある。また、TVをご覧になる際には個別で椅子を用意するなどして思い思いに過ごせるよう環境作りに努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にはご家族に協力をお願いし、使い慣れた家具や寝具の持ち込みをお願いしている。自宅で使っておられたTVやベット、布団を持ち込んで頂き自宅にいるような居心地の良い空間作りを行っている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 表札や居室ドアには表札を作り自室がすぐに分かるようにしている。またトイレの場所を示したりしている。月日がすぐに分かるよう壁に大きなカレンダーを貼り付けている。 | | |